

コラボレーションカードの活用例

区分	学年	教科	単元	時期	ねらい
小	5年生	社会	工業生産を支える運輸と貿易	2学期	日本の貿易や生活を支える海運業についてふれ、海運が日本の生活に欠かせない存在であることに気づく。

時間	学習活動 (主な発問と予想される生徒の様子)	指導上の留意点
導入 10分	(1) 学習課題をつかむ ▼使用するスライド・カード (1～8) ○思い出してみよう 問：自動車のドアや車体部分は、どうやってつくられていたかな？何が原料になっていたかな？ 児童の回答例 ・鉄板をプレスしてつくっていた！ ○鉄の原材料はどこから輸入しているか考える 問：鉄鉱石は、どこから輸入しているのだろう？ 児童の回答例 ・アメリカやカナダから輸入している ○鉄鉱石の輸入手段について予想する 問：こんなに遠いところから、どうやって鉄鉱石を運んでいるのだろう？ 児童の回答例 ・船 ・飛行機 ○日本の貿易で使われる輸送手段について考える 問：外国と品物の売り買いすることを貿易といいます。日本の貿易では、船はどのくらい使われているのかな？ 児童の回答例 ・50% ・80% ★重量ベースで99.5%、金額ベースで70.6%が船であることを確認する。 ○学習課題（問い）を共有する 問：船は、どのように日本と世界をつないでいるのか考えていきましょう。	◆前単元の「自動車の工業の盛んな地域」で学習したことを振り返る。 ◆鉄は鉄鉱石から作られており、日本で使われる鉄鉱石は、ほぼすべて外国から輸入していることを確認する。 ◆ピン集計で児童の考えを見える化する。 ◆日本の主な鉄鉱石の輸入先が、オーストラリア・ブラジル・カナダであることを確認する。 ◆原料の輸送手段に目を向ける。 ◆船で海上を移動して物を運ぶことを「海運」ということを確認する。 ◆鉄鉱石の輸送手段は「船」であることを説明し、原料の他にも、衣服、食糧、自動車なども船で運んでいることを確認する。 ◆日本の主な輸送手段（トラック、鉄道、飛行機、船）について確認し、船が利用されている割合を考える。 ◆船が99.5%で、輸送の主役である驚きを共有し、何ををどのように輸送しているのかについて児童の「？」を引き出す。 ◆様々な国や地域を船で結び、人や物を運んでいる企業「株式会社商船三井」の取組から学習することを伝える。



- 鉄鉱石の輸入がどこから輸入しているか考える際には、世界地図とピン集計機能を使うことで、児童が予想した国について、全員の考えが集計され、見える化できます。
- 輸送手段が「船が99.5%、飛行機が0.5%」という驚きから「問い」を生み出しましょう。

時間	学習活動 (主な発問と予想される生徒の様子)	指導上の留意点
展開 20分	(2) 船を使った輸送の仕方について ▼使用するスライド・カード (9～15) ○船の種類と運んでいるものを調べる 問：どんな船がどのようなものを運んでいるのか調べましょう。 児童の回答例 ・運ぶものに合わせて、いろいろな船があるんだな ・物だけでなく、人も運んでいるんだな。 ○船の大きさを確かめる 問：自動車船の大きさを見てみましょう。大きさを比べてみましょう。 児童の回答例 ・自動車船に乗っている人が小さく見えるよ。 ・タンカーやコンテナ船はとても大きいんだな。 ・飛行機は船と比べるととても小さいんだな。 ○鉄鉱石の輸送を確かめる 問：鉄鉱石の輸入から自動車の輸出までの輸送はどうなるかな？ 児童の回答例 ・日本は他の国から輸入したものを加工して、他の国に輸出しているんだな。 (3) もし海運が止まったら ▼使用するスライド・カード (16～17) ○海運と自分の生活の結びつきを考える 問：日本は海運で、原料や燃料、衣料品、食糧・製品など、たくさんのものを運んでいました。では、もし、海運が止まってしまったら、自分たちの生活はどうなるのかな？ 児童の回答例 ・食料品が輸入されず、食べられるものが少なくなったり、価格が高くなったりする。 ・燃料が不足して、使える電機の量が減ったり、停電が起きたりする。 ・鉄鉱石などの材料が不足して、自動車などの製品がつかれなくなり、輸出もできなくなる。	◆「株式会社商船三井」について、簡単に紹介する。 ◆船の種類と運んでいるものについて、動画やスライドで確認する。 ・ドライバルク船（鉄鉱石） ・タンカー・LNG船（燃料） ・コンテナと海陸輸送（食料・製品輸送） ・自動車船（輸出） ・フェリーと国内物流（旅客輸送） ・クルーズ船（人） ・の動画やスライドで確認する。 ◆船と飛行機の大きさの比較をすることで、船が99.5%だということを実感することができる。 ◆日本の「加工貿易」について知るきっかけにしたい。 ◆輸入にも輸出にも船が使われていることを確認する。 ◆海運が止まったら自分たちの生活がどうなるか、運輸を自分事ととらえて考える。 ◆カードに入力し、みんなのボードに提出する。 ◆みんなのボードに出されたカードは、スタンプ機能やコメント機能を使って交流する。 ◆キーワード集計を使って、全体の傾向を見る。集計結果から、児童の意見発表につなげる。 ◆日本の貿易の99.5%を担う海運が止まったら、自分たちの生活に大きな影響を及ぼすことに気づききっかけにしたい。



それぞれの考えについて、他者参照を取り入れたり、スタンプやコメントで交流することで、多様な見方や考え方に触れ、運輸について自分事ととらえて、海運の重要性を実感できるようにしましょう。

時間	学習活動 (主な発問と予想される生徒の様子)	指導上の留意点
発展 5分	(4) 海運業で働く人を知る ▼使用するスライド・カード (18～20) ○海運業で働く人について調べる 問：船にかかわる仕事をしている人のインタビュー映像を見ましょう。 児童の回答例 ・安全に運ぶための工夫がたくさんあるんだな。 ・やりがいをもって仕事をされているんだな。 ・海の仕事に興味がわいたぞ。	◆3名のインタビューで、それぞれの仕事について、安全に運ぶための工夫や仕事のやりがいについて理解できるようにする。 ◆直前の「もし海運が止まったら」を受け、輸送のためには船や設備だけでなく、人の働きも重要だということに気づくようにしたい。
まとめ 10分	(5) まとめ ▼使用するスライド・カード (21～22) ○学習のまとめをする 問：船は、どのように日本と世界をつないでいましたか？自分の言葉でまとめてみましょう。 児童の回答例 ・船は、燃料や食料を輸入したり、自動車を輸出したりして、日本と世界をつないでいる。 ・船は、私たちの生活に欠かせないものを世界中から運んで、日本と世界をつないでいる。 ○学習を振り返る 問：今回の学習で、わかったことやもっと知りたいことを書きましょう。 児童の回答例 ・日本は他の国から輸入したものを加工して、他の国に輸出しているんだな。	◆「船は、～～日本と世界をつないでいる。」という文になるように、「どのように」の部分を考えるようにする。 ◆キーワード集計をして、個人で考えたまとめの中で多く使われているワードに目を向けて全体のまとめにしていこう。 ◆本時の学習の内容についてわかったことを確認することはもちろん、本単元の導入として、これからの学習でもっと知りたいことも確認したい。 ◆キーワード集計で出てきた言葉を、次時に行う単元のめあて設定に活用していこう。
		サポートおすすめポイント ・航海士・陸上職・技術系の仕事をしている3名のインタビューを通して、多角的な視点で海運について考えることができます。 ・仕事のやりがいも聞くことができ、キャリア教育にもつながられます。
		活用のポイント ・まとめや振り返りを他者参照できるようにすることで、自分と違う考え方や根拠に触れたり、同じ考え方に共感したりすることができます。 ・各々が考えたまとめをキーワード集計をすることで、個人のまとめを学級全体のまとめにしやすいです。
	授業によりつけられる力 ・自分以外の考えを理解し尊重する力 ・先を見通したり、原因を突き止めたりする、問題解決力や仮設思考力 ・多角的な視点からつながりをとらえる力	